

# 苏州大学

## 二〇〇九年攻读硕士学位研究生入学考试试题

专业名称: 日语语言文学

考试科目: 综合日语 (A 卷)

一、次の文中の下線部の言葉を指示通りに、敬語を使った言い方に直せ。

(1 点×10=10 点)

- ①夜分に訪問してすみません。(謙譲語)
- ②お茶を飲みませんか。(尊敬語)
- ③それは私のではない。(丁寧語)
- ④事情は以前から聞いておりました。(謙譲語)
- ⑤この本を見ましたか。(尊敬語)
- ⑥いつ出発しますか。(尊敬語)
- ⑦私も手伝いますか。(謙譲語)
- ⑧今朝電話がありました。(丁寧語)
- ⑨この手紙を見せましたか。(謙譲語)
- ⑩私を呼びましたか。(尊敬語)

二、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(計 15 点)

最近、ビニルハウスがたくさん作られて、花でも野菜でも果物でも、年がら年中栽培され、収穫されて、いつでも目に触れるようになりました。私たちの少年時代は、菊といえば秋の花であり、トマトといえば夏のものと思っていたものですが、栽培法が進むと共に、花や野菜の季節感もいくらか違ってきたように思われます。A ( )、道路を造るために、川や畑が埋められ、団地建設のために、山野や森林がけずられてしまい、野鳥の声も遠くなり、木木の緑もまばらになって、四季折々の趣も消えていく感じでした。

B ( )、私は、必ずしも悲観はしません。C ( ) 次々に近代化されていく都市や農村の風景にも、D ( ) 流行の移り変わりの激しい風俗にも、新しい年中行事の雰囲気にも、今までになかったういういしい季節感を発見するに違いないと思うからです。大昔から養い育てられ、日本人の心に生きている季節感の根は、そうやすやすと枯れてしまうものではないと信じていますから。

問一 A～Dの( )中に入れるのに適当な言葉を次から選び、記号で記入せよ。(4 点)

ア. というのは イ. そのうえ ウ. また エ. しかし

A ( ) B ( ) C ( ) D ( )

問二 「問一」に挙げた四つの接続詞は、次の接続詞の種類のどれに当たるか、ア・イ・ウ・エの記号で( )の中に記入せよ。(4 点)

注意: 答案请不要做在试题纸上。

並列・添加 ( )      選択 ( )      説明 ( )

話題の転換 ( )      順接 ( )      逆接 ( )

問二 文中にある副詞を探して、その下に線を引きなさい。なお、次の副詞の種類に当たるものを一つずつ選んで ( ) の中に書き入れよ。 (7点)

状態の副詞 ( )      程度の副詞 ( )      陳述の副詞 ( )

三、次の詩を読んで後の問いに答えよ。

(計 22 点)

春高樓の花の宴

めぐる盃①かげさして

千代の松②が枝わけいでし

③むかしの光いまいづこ

秋陣營の霜の色

鳴きゆく雁の数見せて

植うるつるぎにてりそひし

a ( )

今荒城のよはの月

替らぬ光たがためぞ

垣に残るはただかづら

b ( )

四

天上影は替らねど

④榮枯は移る世の姿

写さんとてか今もなほ

c ( )

(土井 晩翠『荒城の月』)

問一 空所 a～c に、次の中から最も適切なものを選んで入れよ。 (3 点)

ア 嗚呼荒城のよはの月

イ 松に歌ふはただあらし

ウ むかしの光いまいづこ

問二 下線①は、何がどうするということのか。 (3 点)

問三 下線②は文法的に言うと、どうなるか、次の A・B の中から最も適当なものをえらべ。 (4 点)

A ア 主語を示す

イ 体言にかかる

ウ 同格の

B ア 格助詞

イ 接続助詞

ウ 終助詞

- 問四 下線③「むかしの光」に対応して出されている語句はどれか。(4点)
- 問五 下線④の意味に近い四文字からなる漢字の熟語がある。それは、柴枯( )  
( )という。空所を二文字補え。(2点)
- 問六 (1)各行はどのような調子で統一されているか。(3点)
- (2)このような詩の型を何と言うか。(3点)

四、次の言葉の解釈にふさわしいものを ABCD の中から一つ選べ。(10点)

1. 頭を抑える

- A. 相手の立派な態度や行いについて尊敬すること。
- B. 他人の行動や言葉を制すること。
- C. 謙遜であること。
- D. 心配であること。

2. 腕を振るう

- A. 腕前・能力を十分に発揮すること。
- B. 自分の力を発揮したいこと。
- C. 傍観していること。
- D. 上手になること。

3. 気が遠くなる

- A. 気性が強いこと。
- B. 心配で落ち着かないこと。
- C. 気になること。
- D. 意識がなくなる。

4. 首を賭ける

- A. 賭博をすること。
- B. 命をかけて行うこと。
- C. 待っていること。
- D. 没頭すること。

5. 抜け目がない

- A. 注意が行き渡ること。
- B. とても驚くこと。
- C. ずる賢く立ち回ってすきがないこと。
- D. 視線があちこちに動くこと。

6. 目もくれない

- A. 見向きもしないこと
- B. 注意していなければならないこと。
- C. すばやく気がついてみることに。
- D. とても忙しいこと。

7. 尾を引く

- A. 相手に気に入られようと機嫌をとること。
- B. 謙遜であること。
- C. 大げさに言うこと。
- D. 物事が済んだあとまでも、その名残や影響が続くこと。

8. 鳥の行水

- A. 少しだけ飲むこと。
- B. 暇があること。
- C. 入浴時間の短いたとえ。
- D. おとなしくなっていること。

9. 犬猿の仲

- A. 人をだますくせもの同士を指すこと。
- B. 仲の悪い間柄のたとえ。
- C. 仲の良いたとえ。
- D. 同類の者を指すこと。

10. 舌を出す

- A. 陰でばかにすること。
- B. 口が達者であること。
- C. 舌を鳴らすこと。
- D. おいしい食べ物を食べることに。

五、次のことわざの解釈に、最も適当だと思う諺を A.B.C.D. から一つ選べ。(5点)

1. 「時機を失って役に立たないこと」というのはどれか。

- |           |             |
|-----------|-------------|
| A. 六日の菖蒲  | B. 人の噂も七十五日 |
| C. 六十の三つ子 | D. 仏の顔も三度   |

2. 「ひどく劣っている」というのはどれか。

- |            |               |
|------------|---------------|
| A. 伊達の薄着   | B. 盗人とらえて縄をなう |
| C. はだしで逃げる | D. 見ぬもの清し     |

3. 「物事は完成する直前に失敗しやすいものである」というのはどれか。

- A. 一言をもってこれを覆う      B. 痛し痒し  
C. 九仞の功を一簣に欠く      D. 磯際で舟を破る

4. 「不可能なことのたとえ」というのはどれか。

- A. 杓子で腹を切る      B. 君子の交かわは淡くして水の如し  
C. 油断大敵      D. 蜚雪の功をつむ

5. 「人は交わる友によって影響を受け、善にも悪にも感化される」というのはどれか。

- A. 白駒隙を過ぐ      B. 弱り目も祟り目  
C. 朱に交われれば赤くなる      D. 山高きが故に尊からず

六、次のことわざまた熟語の意味を日本語で解釈せよ。

(2×5=10点)

- ① 折り紙をつける  
② 尾ひれをつける  
③ 痒いところに手が届く  
④ 能ある鷹は爪を隠す  
⑤ 青は藍より出でて藍より青し

七、下の文は日本近代文学名作の冒頭分である。その文に当てはまる作品名と作家名を記号で、選べ。

(2×5=10点)

- ① 親譲りの無鉄砲で子供のときから損ばかりしている。  
② 石炭をば早積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静かにて。……今宵は夜ごとにここに集ひ来るカルタ仲間もホテルに宿りて、  
③ ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨止みを待っていた。  
④ 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜のそこが白くなった。信号所に汽車が止まった。  
⑤ 道がつづらになって、いよいよ天城峠にちかづいたと思うころ、雨足が杉の林の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追ってきた。

作品名

- (ア) 雪国      (イ) 夜明け前      (ウ) 舞姫      (エ) 風の又三郎      (オ) 羅生門  
(カ) 草枕      (キ) 伊豆の踊り子      (ク) たけくらべ      (ケ) 坊ちゃん      (コ) 山椒太夫

作家名

- a 島崎藤村      b 樋口一葉      c 川端康成      d 夏目漱石      e 森鴎外  
f 芥川龍之介      g 宮本賢治

八、日本事情の歴史や文学や地理などの問題について、穴埋めをせよ。

(1点×10=10点)

- ①「和を以て貴と為す」は、聖徳太子が定めた（ ）の第一条である。  
②明治維新に、思想啓蒙家の（ ）が「学問の勸め」などの著書を書いて、大きな役割を果たした。  
③中国の通信社は新華社であるが、日本の通信社は（ ）である。  
④近代文学の発生には、1885年、坪内逍遙が文学評論の（ ）を発表し、写実主義という新しい文学理論を打ち出した。  
⑤仙台の松島と広島島の厳島と京都府の（ ）は、「日本の三景」と呼ばれる。  
⑥江戸末期において、若くして暗殺された土佐藩の倒幕派義士は（ ）である。  
⑦京都市右京区嵯峨の嵐山には、周恩来総理の吟詠した（ ）という詩句の詩碑が立てられている。  
⑧1955年、第一回原爆禁止の世界大会が広島で開かれた、その後、毎年東京市、広島市、（ ）で開かれる。  
⑨中国の外交部、教育部、衛生部は日本の外務省、文部省、（ ）に相当する。  
⑩1968年に、川端康成は文学のノーベル賞を受賞された。そして、1994年に、もう一人の作家である（ ）も、ノーベル文学賞を獲得した。

九、次の文章は夏目漱石の『こころ』の一節である。これを読んで後の問いに答えよ。

(計28点)

私は奥さんからそういう風に取り扱われた結果、段々快活になって来たのです。それを自覚していたから、同じものを今度はKの上に応用しようと試みたのです。Kと私とが性格の上において、大分相違のある事は、長く交際して来た私によく解っていましたが、私の神経がこの家庭に入ってから多少角が取れた④ごとく、Kの心もここに置けばいつか沈まる事があるだろうと考えたのです。

Kは私より強い決心を有している男でした。勉強も私の倍ぐらいはしたでしょう。その上持って生れた頭の質が私よりもずっとよかったのです。後では専門が違いましたから何ともいえませんが、同じ級にいる間は、中学でも高等学校でも、Kの方が常に上席を占めていました。私には平生から何をしてもKに及ばないという自覚があったくらいです。けれども私が強いてKを私の宅へ引っ張って来た時には、私の方がよく①事理を弁えていると信じていました。私にいわせると、彼は②我慢と忍耐の区別を解していないように思われたのです。これはとくにあなたのために付け足しておきたいのですから聞いて下さい。肉体なり精神なりすべて我々の能力は、外部の刺戟で、発達もするし、破壊されるものでしょうが、どっちにしても刺戟を段々に強くする必要のあるのは無論ですから、よく考えないと、非常に③険悪な方向へむいて進んで行きながら、自分はもちろん傍のものも気が付かずにいる恐れが生じてきます。医者の説明を聞くと、人間の胃袋ほど④横着なものはないそうです。粥ばかり食っていると、それ以上の堅いものを消化する力がいつの間にかなくなってしまうのだそうです。

だから何でも食う⑩ケイコをしておけと医者というのは。けれどもこれはただ慣れるという意味ではなかろうと思います。次第に刺戟を増すに従って、次第に⑪エィヨウ機能の抵抗力が強くなるという意味ではなくてはなりません⑫まい。もし反対に胃の力の方がじりじり弱って行ったなら結果はどうなるだろうと想像してみればすぐ解る事です。Kは私より偉大な男でしたけれども、全くここに気が付いていなかったのです。ただ困難に慣れてしまえば、しまいにその困難は何でもなくなるものだと決めていたらしいのです。艱苦を繰り返せば、繰り返すというだけの功德で、その艱苦が気にかからなくなる時機に邂逅えるものと信じ切っていたらしいのです。

私はKを説くときに、ぜひそこを明らかにしてやりたかったのです。しかしいえばきつと反抗されるに決まっていた。また昔の人の例などを、引き合いに持って来るに違いないと思いました。そうならば私だって、その人たちとKと違っている点を明白に述べなければならなくなります。それを⑬首肯してくれるようなKならいいのですけれども、彼の性質として、議論がそこまでゆくと容易に後へは返りません。なお先へ出ます。そうして、口で先へ出た通りを、行為で実現しに掛かります。彼はこうなると恐るべき男でした。偉大でした。自分で自分を破壊しつつ進みます。結果から見れば、彼はただ自己の成功を打ち砕く意味において、偉大なのに過ぎないのですけれども、それでも決して平凡ではありませんでした。彼の気性をよく知った私はついに何ともいう事ができなかったのです。その上私から見ると、彼は前にも述べた通り、多少神経衰弱に罹っていたように思われたのです。よし私が彼を説き伏せたところで、彼は必ず激するに違いないのです。私は彼と喧嘩をする事は恐れてはいませんでしたけれども、私が孤独の感に堪えなかった自分の境遇を顧みると、親友の彼を、同じ孤独の境遇に置くのは、私にとって忍びない事でした。一歩進んで、より孤独な境遇に突き落とすのはなお厭でした。それで私は彼が宅へ引き移ってから、当分の間は批評がましい批評を彼の上に加えずにいました。ただ穏やかに周囲の彼に及ぼす結果を見る事にしましたのです。

問一 「私」はKをどのような人物だと見ているのか。四項目に整理して簡潔に答えよ。(8点)

問二 下線部①「事理を弁えている」とは、ここではどういう意味か、簡潔に答えよ。(2点)

問三 下線部②「我慢」は、元来は仏教用語であるが、ここではどういう意味で使われているのか。次のイ～ホの中から最も近いと考えられるものを選んで、記号で答えよ。(2点)

- イ 高慢で、自分は世間を超越した存在であることを信じこんでいる。
- ロ 他の人に出来ないことでも、自分だけはそれが出来ると思い込んでいる。
- ハ 強情を張って、辛いことでも少しも辛くないような顔をする。
- ニ いやなことであっても、仕方がないと諦めて、その通りにする。
- ホ 自分の感情や欲望を表すことを抑制する。

問い四 下線部傍線③「首肯してくれる」は、ここでどういう意味か、簡潔に答えよ。

(2点)

問い五 本文の要旨を150文字以内に纏めよ。(10点)

問い六 下線部④、⑤はそれぞれ何品詞の何活用形か、それぞれ説明せよ。(2点)

問い七 下線部⑥⑦⑧⑨の漢字にはカタカナ、カタカナには漢字を当てよ。(2点)

十、次の文を読んで、後の問いに答えよ。(計30点)

映画が芸術に近づいていくのを邪魔するのは、イリュージョンだけではなかった。そのほかにもいくつかのさし障りがあった。①その一つは機械である。

映画はカメラや録音機をはじめとするいろいろな機械によって、また光学や電気学や写真化学やその他多くの科学や技術をもととして作られる。ところが、芸術というものはあくまでも人間の精神の作り出すものであって、機械や科学などがそこに割り込んでくる余地はないはずである。人間は、機械をもって織物や家具や自動車やジェット機を作ることができるし、科学をもってペニシリンや原子爆弾を作ることができる。だが、芸術は作れない。——こういう考え方があった。

しかし、これまで人間は、機械をもって芸術を作り出していなかっただろうか。人類の文明と言うものが、道具の⑤使用によってはじめて起こってきたように、人間の芸術もやはり芸術のための道具の使用によって始めて生まれてきたのであろう。氷河に覆われた洞窟の中で、乏しい獣脂の灯を頼りに野牛の姿を壁に刻み残した原始人も、手の爪で岩を掘りはしなかった。たぶん堅くて鋭くとがった石ののみが②その手には握られていたに相違ない。同じ時代に同じような壁に描かれた絵描は、その画家が、いろいろな色の土を溶かして獣の毛を束ねた画筆に浸していただろうことを物語っている。これらの原始的な道具は、その当時の人類にとっては最も進んだ機械であったに違いない。③それは、不細工な石の斧や投石器が当時の人類にとっては、いまのジェット機や水素爆弾以上の驚くべく恐るべき新兵器であったのと同じである。

芸術というものが、何万年か前に何処かに積み重ねられた二つの石から出発して、今日まで生き延びているだけでなしに、いよいよ広く大きな力となり得ている第一の原因は、それがいつでもその時代の④一番高度な「機械」をこの上なく勇敢に、またすばやく手に入れて利用してきたこと、言い換えれば、芸術があらゆる時代、あらゆる社会の生産技術の土台の上にじかに立っていることにある。洞窟にマンモスの形を彫刻した人間は氷河時代のミケランジェロであっただけではなく、またその時代のエディソンであり、アインシュタインであったのだ。ギリシアやエジプトの大建築を作り上げた迫持の原理や、滑車や、槌子の応用は、近代も鉄とコンクリートとガラスの建築構造法に当るだろう。粘土やテラコッタから、青銅や陶磁器やプラスチックへの道。色彩絵の具の製造、油絵の技法の発明。口伝から羊皮紙やパピルスに描かれた文字、それから印刷された書物への進歩。——こういう芸術の歴史は、そのまま科学の発達と技術的発明の歴史だと言うことが分かる。



弓形に張られて糸をはじいたりこすったりして音階をつくる事は大発明だったに違いない。バイオリンを機械と呼ぶことを人はためらうかもしれないが、ホルンやオルガンやピアノはもう、立派な音楽のための機械である。最近の電氣的また電子工学的楽器はいうまでもない。こうして実は、人類の歴史あつて以来、芸術はかつて一瞬間といえども化学や機械と無縁に存在したことはない。そして、新しい技術や機械が現われるごとに芸術も一歩ずつ前進してきたのである。

過去を振り返ってみると、どんな時代にも、新しい生産技術の発達はずもそれぞれの規模での産業革命をもたらし、それはまた、それぞれの広さと深さにおいて社会的変革を準備している。中世期からの手工業者たちは、機械とその作り出す品物を憎んだり軽蔑したりした。彼らの目から見ると、機械製品は俗悪で無趣味で無料心の塊であったのだ。しかし、機械は彼らにお構いなしにどしどしと商品を大量生産した。その商品はまた手工業品とは違った美しさと質のよさを持っていた。こうして近代の産業革命は急速に資本主義を発展させ、手工業とその周囲にまつわりついていた封建的社会の残りかすを滅ぼしてしまった。こういう時に、芸術だけがもとのままに残っていてとしたら、それは不思議である。新しい商品生産と新しい流通過程から生まれた社会は、もう手工業的な、ただ頭と手とそして時には足とだけで作られる芸術が生き延びることを許さない。芸術における産業革命が当然のこととして行われなければならない。映画の誕生が、十九世紀の終わり、資本主義の成熟と時を同じくしていることは、だから、決して偶然の暗合ではない。

問一 下線部①～③の指示語の指示内容を示せ。(3点)

①その                      ②その                      ③それ

問二 下線部④の「一番高度な機械」とほぼ同じ意味で言い換えられていると思われる部分を文章から抜き出せ。(1点)

問三 下線部⑤の「使用」という熟語と同じ構成でできている漢字を選べ。(2点)

1 売買    2 東西    3 岩石    4 着陸    5 頭痛    6 森林

問四 問題文の意味段落を分け、各段落の要旨を纏めよ。(10点)

問五 問題文書き方の特色を簡条書きにまとめよ。(4点)

問六 この文で作者が言いたいことは何か。115字以内で答えなさい。(10点)